

関数検定から見るタラ条件文の中国語訳 ストラテジー研究

李 光 赫 趙 海 城

1 はじめに

タラ形式は従来、典型的には口語文体で使われる仮定表現として多く研究されている。益岡（1997:51）では前件が現実化以前の事態であれ、仮定的事態であれ、また、動的事態であれ、静的事態であれ、その特徴は「共通して、時空間の中に実現する個別的事態の間の依存関係を表すと言うことができる」と指摘している。

こういった特徴を持っているタラ形式は中国語では仮定形式“如果 p, 就 q”か両事態の依存関係を表す“一 p, 就 q”で表すと思われがちだが、実際の対訳例の調査では“一旦 p, 就 q”と“如果 p 的话, q”で表す傾向が見られた。

- (1)a. 「でもこの町を離れたらきっとあなたは私のことなんか忘れてしまうわ。そして別の女の子をみつけるのよ」と彼女は言った。

村上春樹『国境の南、太陽の西』

- b. “可是一旦离开这里, 你就会把我忘到脑后, 去找别的女孩了。

”她说。林少华 译《国境之南, 太阳之西》

- (2)a. 今年も開かれると聞きましたが」だれから聞いたと問われたら、古館の細君からと答えるつもりでいたが、……。

森村誠一『新・人間の証明』

- b. “听说今年也要开？”栋居心想, 如果神谷问从哪里听来的, 就回答说古馆妻子告诉的。

徐宪成 译《新人性的证明》

上記の例 (1) (2) のように、主に口語文体で使用されているタラは“(如 果/一)p, 就 q”だけでなく“(一旦)p (的话), 就 q”などといった形式に訳 されることがある。タラのその他の用法である反事実・行為成立状況などの

中国語訳の傾向についての研究は管見の限りあまり見られない。本論では、こういった問題の解決を念頭に今までの理論研究を基に、自然言語としての文学作品の中国語訳における日中対応関係を実証的に考察してみたい。

2 従来の研究

タラ条件文における研究については、益岡（1997）、蓮沼（他）（2001）、日本語記述文法研究会（2008）、前田（2009）などが挙げられる。

（1）益岡（1997:111）ではタラ条件文の特徴について、「時空間に実現する特定の事態を表すもの」で、「特定の事態を問題にする点」だとしている。

（2）蓮沼（他）（2001）ではタラ条件文の意味を「A 假定状況設定、B 行為成立状況設定、C 前件事実文、D 反事実文、E 発見の状況、F きっかけ」に分類している。

（3）日本語記述文法研究会（2011:96-110）では、タラ条件文を「仮説条件文、反事実条件文、反復条件文、事実条件文」に四分類している。蓮沼（他）（2001）のA—Cはここでいう「仮説条件」に、EとFはここでいう「事実条件」に相当すると思われる。

（4）前田（2009）ではタラ条件文の意味について「仮定的条件・非仮定的条件」に分けた上で、そのうちの「非仮定的条件」を更に「連続（契機）、きっかけ、発見、発現」に分けているが、ここでいう「発現」はテイル形に付くタラ条件文のことであるが、別の機会にテイル形に付くト・タラ・バの意味について考察するため、本論ではタラの「発現」用法を考察範囲から外す。また、本論では前田（2009）でいう「連続（契機）」と「きっかけ」の微妙な相違を議論せず、合わせて「契機」に分類する。つまり、本論でいうタラ条件文の「契機」は前田（2009）でいう「連続（契機）」と「きっかけ」、及び蓮沼（他）（2001）での「Fきっかけ」を含むものとする。

タラについての日中対照研究には鄒善軍・李光赫等（2014）と李光赫・鄒善軍（2016）などがある。

鄒善軍・李光赫等（2014）では対訳コーパスにおける対訳例のパーセンテージからタラ形式の使用傾向と翻訳傾向を分析したが、「假定状況」が51.5%であることから「假定状況」はタラ形式のメイン用法としたうえで、中国語

訳の傾向を探った。その結果、中国語訳は無標文と“要是,就”がそれぞれ40.7%、25.5%であることから、“要是,就”がタラ条件文の全体的意味に一番近い形式だとしている。このような対訳傾向をパーセンテージで示した上で分析する手法は従来よく取られているものであるが、非定量的で、パーセンテージに見られる違いが拡大解釈されることもよくあるため、統計的手法で分析を進める必要がある。

李光赫・鄒善軍(2016)では、40部の小説を対象に関数検定の立場から計量的に考察しているが、40部の日本の作品のうち、23部は中国日本学研究所センター編の日中対訳コーパスからのものであり、その殆んどが著作権が切れているため、50年以上前の作品となるため、それらの作品の中で使われているタラの用法は現代日本語と少しずれがあることは言うまでもないことである。また、タラの種類においても当研究はWH疑問詞を用いるタラ形式の翻訳方法を別分類とせず、すべて「仮定表現」として統計している。

こういった点を踏まえて、本論では80年代以降の比較的新しい日本の文学作品50部から、作品ごとにヒット順で10例ずつ、合計500例を集めて分析対象例とする。また、タラのWH疑問文も別分類した上で今回の統計範囲に入れずにすることにする。つまり、タラ500例にはWH疑問文は含まれていないことになる。

3 タラの仮定的表現形式

本論ではタラ条件文の意味分類について、上記の先行研究の分類を参考にしつつ、「Ⅰ 仮定状況設定、Ⅱ 行為成立状況設定、Ⅲ 前件事実文、Ⅳ 反事実文、Ⅴ 発見の状況、Ⅵ 契機」に分類し、日中両方における対応関係を見ていくことにする。そのうちのⅠ～Ⅳは仮定文であり、ⅤとⅥは事実文である。この3と4では、タラ形式の意味について従来の研究で多く触れたものに対して解説的に記述するが、本論の展開と理解に必要な重要な部分であり、鄒善軍・李光赫(2014)、李光赫・鄒善軍(2016)などでの分類の記述を基に、簡潔にまとめなおして述べる。

3.1 仮定状況設定： [(p: ある状況を仮定) タラ (q: 起こりそうな結果)]

「仮定状況設定」は前件が後件成立の条件であり、p という状況を仮定した場合に、起こりそうな結果を q に表す用法であるが、このような用法は中国語では“如果 p 的话, q”などで表す (3)。

- (3) a. 「それにしてもさ、おれたちが叔父さんたちを助けそこねたら、やはりこのまま一生、兇悪殺人犯ってことにされてしまうのかな」
田中芳樹『創竜伝 (1)』
- b. “就算是这样好了, 我们如果无法救出姑丈他们, 这辈子恐怕就要被冠上凶恶杀人犯的罪名了。” 汪正球 译《创龙传 (1)》
- (4) a. この道をまっすぐ行ったら, 左手に小学校が見えます。/ b. 沿着这条路一直走的话, 左边边有一所小学。 (自作例 / 筆者訳)

3.2 行為成立状況設定： [(p) タラ (q: 実行・評価モダリティ形式)]

「行為成立状況設定」は「p タラ q」の q には、命令・依頼・禁止・義務などを表す場合であり、中国語では普通“要是 p, (就) q”か“p (之) 后, q”で表す (5-7)。

- (5) a. さあ、八つ裂きにされたくなかつたら、さっさと引きあげろ。そうしたら今度だけは恕してやる。
田中芳樹『薬師寺涼子の怪奇事件簿 (1)』
- b. 不想被大卸八块的话就给我乖乖滚回去, 那我便可以绕过你们这一次。
磊正杰 译《药师寺凉子怪奇事件簿 (1)》
- (6) a. あのう、僕はソウマという者ですけど、藻奈美さんがお帰りになったら、電話があったことだけお伝え願えますか。
東野圭吾『秘密』
- b. 那, 我的名字叫相马。藻奈美同学回来后, 您能告诉她我打过电话了吗?
章程 译《秘密》
- (7) a. おなか为空いたら, 声を掛けてね。/ b. 要是饿了的话, 跟我说一声啊。
(自作例 / 筆者訳)

3.3 前件事実文: [(p: 事実) タラ (q: 判断)]

「前件事実文」は p が事実の仮定文で、「p が会話の時点で既に成り立っている状況で、q はそれに基づく判断である」場合であり、p には具体的状態を表す「これだけ、そんなに」などと共起する場合が多く、中国語では基本的に無標で表す場合も多いが、“p 的话,(就)q” に訳す場合も見られる(8,9)。

(8) a. こうなったら覚悟を決めるほかはない。/ b. 这样的话, 无论如何得下定决心。 (自作例 / 筆者訳)

(9) a. そんなにたくさん飲んだら、後で頭が痛くなるよ。 (蓮沼 (他):2001)

b. 那样狂喝的话, 过后脑袋会疼的。 (筆者訳)

3.4 事実に反する仮定文

「反事実仮定」とは既に成り立っている事態を基に、それとは逆の事態を想定した場合の予想される結果を表す文であり、前件が現在の状況或いは過去の実事と明らかに違う場合の仮定文である。つまり、テンスと深い関連性を持っており、過去・現在・未来の視点から以下の三つのパターンに分けることができる。

一番目に、[(p: 現在の事実に反する) タラ (q: p から予想される結果)] では、現在の状況とは明らかに違うことを p として表し、後件はその事実に反する仮定を踏まえて、予想される結果を提示するが、中国語では“(假如 / 要是) p, q” で表す (10)。

二番目に、[(p: 過去の事実に反する) タラ (q: 予想される今の結果とは異なる結果)] では、p が過去の事実と明らかに違うことを表す。p が動作・変化を表す動詞の場合は、普通「~テイタラ」という表現が使われる。文末に「のに」という表現が使われ、事実に反していることが明らかな場合は、「シタラ」という表現も使われるが、中国語では“如果 p 的话, 就 q” か“要(不)是 p, 就 q” で表す (11)。ちなみに本論では「~テイタラ」形式を考察範囲に入れず、対訳例統計からも外している(詳しくは注2を参照すること)。

三番目に、[(p: 過去の事実に反する) タラ (q: 現在・未来におこる可能性のある出来事)] では、過去の事実に反する仮定 p に基づいて、現在或い

は未来に起こる可能性があることを q に表す。q には基本形もタ形も使われるが、「てい(る/た)」の形になることが多く、文末には判断を表す表現や「ところだ(った)」という表現がよく使われる。中国語では“要(不)是 p 的话, 就 q”などで対訳する場合が多い(12)。

- (10)a. 財布を覗いて、片山は青くなった。千円札一枚しか入っていない！
「おい、運ちゃん、悪いけど東中野に寄ってくれないか」「方向が逆ですよ」「急用なんだよ」運転手は渋々肯いた。片山が金を持っていないと知ったら、喜んでUターンしたに違いない。

赤川次郎『三毛猫ホームズの恐怖館』

- b. 望望钱包, 片山脸都白了。里面只有一张千圆钞票!“喂, 司机, 麻烦你转去东中野。”“方向相反哦。”“有急事嘛。”司机不情不愿地点点头。假如他知道片山没带钱, 肯定欢欢喜喜地掉头。

林思孟 译《三色猫恐怖馆》

- (11)a. もっと注意して操作していたら, こんな事故は起こさなかった。
(蓮沼(他):2001)
b. 如果更加小心一点去操作的话, 就不会发生这样的事故了。
(筆者訳)
- (12)a. あの時に手伝ってくれなかったら, 締め切りに間に合わないところだった。
(自作例)
b. 要是那时候你没有帮我的话, 就赶不上截止日期了。
(筆者訳)

4 タラの事実的表現形式

前節で述べた仮定的表現と違って、ここでは前後両事態間の現実状況を表す「発見の状況」、「契機」用法について述べる。

4.1 発見の状況

「p(動作)がきっかけとなって, q(状態)を発見した」との意味の「発見」は普通「pスルト, qシテイタ」といった形式であり、「pが動作、qが状態」を表す場合は p(動作)がきっかけとなって、q(状態)を発見したという意味を表す。こういった発見の用法について、前田直子(2009:80)では「前

件に発見するための具体的な動作が来て、発見時の状況を表し、後件に発見された物事の状況が述べられるという形を取る。主語は前件（発見主体、基本的には話し手）と後件（発見される事物）では異なり、前節述語は①視覚動作「見る」ほか、②移動動詞「行く」、③思考動詞などに、後節はⅠ存在・状態、Ⅱ主体の知覚などに分けることができる」とされている。

〔(pが発見動作をシ) タラ (qが存在しテイタ / 状態デアル)〕とは p で発見するための動作を用いて発見時の状況を表し、後件に発見された物事の存在を表す。この用法は中国語では“一 p, 就 (发现)q”等で表す (13, 14)。

(13)a. 今朝、来てみたら、いつもの場所にサルディのやつ、すっかり冷たくなっていたんでさあ。 森村誠一『人間の証明』

b. 今天早晨来这儿一看, 萨尔蒂已经浑身冰凉了。

朱金和、孙猛 译《野性的证明》

(14)a. とても上手なティンパニだと思ってよくよく顔を見たら、なんと天吾くんだった。 村上春樹『1Q84 BOOK1』

b. 我想, 这定音鼓演奏得真好。仔细一看, 真是天吾君。

施小炜 译《1Q84 BOOK1》

4.2 契機: [(pが～し) タラ (qが・は～した)]

「契機」(前件が後件の契機になる状況) を表す用法は前で取り上げた発見の用法と非常に似ているように見えるが、前の「発見」とは本質的な違いがある。「契機」の用法は前件が後件のきっかけ・原因となるため、タラ・トをカラ・ノデ・タメに置き換えても問題なく言える場合が多いが (15b)、発見の用法はそれができない (16b)。

異なる動作主の動作・出来事を表すタラは、過去の出来事をつないで p が q のきっかけ・原因となることを表す場合である。この場合は p と q の主語は異なり、また q には話し手以外の動作や出来事が来る。このような契機を表す用法は中国語では普通“(一)p, 就 q”などで表す (17, 18)。

(15)a. 太郎が殴ったら, 次郎は泣き出した。 / b. 太郎が殴った (から / ため), 次郎は泣き出した。 <契機 / 原因>

(16)a. ドアを開けたら, 父が倒れていた。/b.* ドアを開けたため, 父が倒れていた。
 < 発見 >

(17)a. 餌をやったら, 犬は喜んで食べた。/b. 一喂食, 狗就欢快地吃了。
 (蓮沼 (他):2001/ 筆者訳)

(18)a. 電気をつけたら, 明るくなった。/b. 一开灯, 屋里就亮了。
 (蓮沼 (他):2001/ 筆者訳)

5 タラ形式の意味用法分布と対訳傾向

5.1 タラ形式の意味と中国語訳関連度分布状況

今回は日本の小説50作品¹を対象にタラ条件文について中国語でどのように訳されているかを調査した。日本語の小説50部とその対訳本で一作品に10例ずつ(ヒット順)、計500個の対訳例を対象に、タラ条件文の意味を以下6種に、中国語訳を15パターン²に分類した。

1 日本文学50作品とは中国語訳本として刊行されている日本小説のうち比較的新しい作品であり、詳しくは次のようなものである。

- 純文学類10部: 村上春樹8部、『ひらひらの雪(上下)』、『五体不満足』。
- ホラー類10部: 貴志祐介4部、乙一6部。
- SF小説類12部: 田中芳樹の『銀河英雄伝説1-3』、『銀河英雄伝説外伝1-3』、『創竜伝1-3』、『薬師寺涼子の怪奇事件簿1-3』。
- 推理小説18部: 赤川次郎6部、東野圭吾6部、森村誠一6部。

2 今回の調査では継続相(テイル形)につくタラ形式の例を統計の範囲に入れず、本動詞完成相(ル形)につくタラ形式の例のみを統計した。因みに、500例の中には、動作及び事態の終了を表す「終わる、終える、済む」などと使役・受け身形なども含まれていない。更に「テイル+タラ」は「出現」を表しており、中国語では“正在p時, 就q”で表す場合が殆どであり、この点は別の機会に論じたい。従って中国語訳パターンを以下の15分類した。

- [如果(就)]: 仮定を表す副詞“要是/万一/如果(是)/如/假如/倘若/若”等で表す文を指す。
- [如果+的话]: 仮定を表す副詞“要是/万一/如果(是)/如/假如/倘若/若”等に“的话”が付く場合を指す。
- [的话]: “p的话,q”, “p的话, 就q”などの形式を指す。
- [要不是]: “要不是p, (就)q”のことを指す。
- [如果+不]: “如果+不p(的话), (就)q” “如果+没p(的话), (就)q”などの形式を指す。
- [(-)就]: “-p, 就q”, “-p,q”, “p, 就q”などの文末に“了”が付く場合もあるが便宜上区別せず[-p, 就q]で表す。
- [一旦, 就]: “一旦p, 就q”, “一旦p,q”などの形式を指す。
- [(之)后]: 前節に“后/以后/之后”か、後節に“然后/而后”が現れる文を指す。
- [时(候)]: “(正在/在)p时(候),q”, “p, 就在这时q”, “(每当/当)p时,q”など。
- [才(能)]: “p才q”, “p才能q”など。
- [知觉]: 前節に“一看/只看”か、後節に“见到, 看到, 觉得, 感到, 发现, 出现, 闻到, 显出, 表情变得”などが現れる文を指す。

- (19) 意味分類: I [假定状況]、II [行為成立]、III [p 事実文]、IV [反事実]、V [発見]、VI [契機]。
- (20) 中訳パターン: ① [如果 (就)]、② [如果 + 的话]、③ [的话]、④ [要不是]、⑤ [如果 + 不]、⑥ [(一) 就]、⑦ [一旦 (就)]、⑧ [(之) 后]、⑨ [时 (候)]、⑩ [才 (能)]、⑪ [知觉]、⑫ [只要]、⑬ [既然]、⑭ [否则 (没有)]、⑮ [无标]

〈表1〉対訳500例分布状況

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	計
I 假定	126	48	17	—	7	28	17	6	4	1	—	2	—	1	46	303
II 行成	16	6	6	—	2	11	1	15	3	1	—	2	1	—	20	84
III p 事実	1	1	4	—	—	2	—	—	—	—	—	—	5	—	9	22
IV 反事	8	8	1	2	12	2	—	—	—	1	—	—	—	2	—	36
V 発見	—	—	—	—	—	3	1	2	5	1	8	—	—	—	16	36
VI 契機	—	—	—	—	—	3	—	2	—	0	—	1	—	—	13	19
計	151	63	28	2	21	49	19	25	12	4	8	5	6	3	104	500

本論では、関数検定で6種類の意味分類と中国語訳の15パターンとの関連度を調べる目的で、上記の500例とその対訳例で独立した「タラ条件文専用の対訳コーパス」を作成した。「コーパス語数」は500例のタラ形式とそれに対応する中国語訳500例を合わせると1000例になる。また、タラ形式の6種類の意味分類をそれぞれ「中心語」とし、中国語訳の15パターンを「共起語」とする。6種の意味分類とそれに対応する中訳の15パターンとの関連度の組み合わせ数は合計(6×15=)90組になるが、それをTスコア、MIスコア³のスコア・ランキングで配列し、正数値部分だけを(29番目から

⑫ [只要]: “只要 p, (就)q” など。

⑬ [既然]: “既然 p, (就)q”, “既然如此, q” など。

⑭ [否则 (没有)]: “否则, 早就 q” “否则, 也不会 q 到了”, “没有 p 的话, 很可能就是 q 了” など。

⑮ [无标]: 関連副詞もしくは関連詞を一切使わないで表す文のことであり、本論では [p, q] で表す。3 Tスコアとは、「統計学から転用された、2つの語の共起関係の統計的有意性を図る指標」であり、「共起の程度が偶然による確率を超えていると、どのくらいの確かさで言えるかを示す指標」である。後で見る MI スコアなどに比べ、Tスコアは語の頻度に重点を置いた指標であるため、「広く頻繁に用いられるコロケーション」の判定に有用性が高いとされる。

$T = (\text{共起頻度} - \text{中心語頻度} \times \text{共起語頻度} \div \text{コーパス総語数}) \div \sqrt{\text{起頻度}}$

MIスコアとは、情報理論から生まれた相互情報量のことで、ある語が共起相手の語の情報をもつ程度を持っているかを示す指標である。言い換えれば、任意の語が与えられたとき

負数値なのでここでは 28 番目まで) 取り出したのが次の表 2 になる。

28 組の T スコアと MI スコアの関係は表 2 の数値だけでは分かりづらいので散布図に変えて表すと、次の図 1 のようになる。つまり、図 1 は T スコア (縦軸) と MI スコア (横軸) の数値を対応させ、データを点でプロットしたものである。T スコアと MI スコアの分布、相関関係をもっと正確且つはっきり把握できることを目的に、まず、対角線 (フィッティングライン) を引く。対角線の右上方向へ行くほど相関関係が強いことを示す。更には、その上に縦横軸の平均値線を引く。

それぞれ平均値線の右上の A ブロックに入っているのは*印の [7、4、2、8、3、5、11] である (相関度高い順)。高相関関係を表す A ブロックには入れなかったが、T スコアが高い B ブロックに入っているのは○印の [1、6、9、10、12] である。また、同じく A ブロックには入れなかったが、MI スコアが高い C ブロックに入っているのは△印の [13、14、18、20、21] である。

<表 2> 日中両語形式間関連度検定 T・MI スコア表

	日中両語形式間関連度	共起数	T スコア		MI スコア	
B ₁ [1]	I 仮定 + ①如果 (就)	126	No. 1	4.35	No.22	0.46
A ₃ [2]	IV 反実 + ⑤如果 + 不	12	No. 2	4.28	No.5	2.99
A ₅ [3]	II 行成 + ⑧(之) 后	15	No. 3	3.94	No.8	1.84
A ₂ [4]	V 発見 + ⑪知覚	8	No. 4	3.71	No.2	3.80
A ₆ [5]	VI 契機 + ⑮无标	13	No. 5	3.55	No.11	1.72
B ₂ [6]	V 発見 + ⑮无标	16	No. 6	3.01	No.14	1.10
A ₁ [7]	III p 事実 + ⑬既然	5	No. 7	3.00	No.1	4.24
A ₄ [8]	V 発見 + ⑨时 (候)	5	No. 8	2.62	No.6	2.53
B ₃ [9]	III p 事実 + ⑮无标	9	No. 9	2.09	No.16	0.98
B ₄ [10]	I 仮定 + ②如果 - 的话	48	No. 10	2.00	No.25	0.33
A ₇ [11]	III p 事実 + ③的话	4	No. 11	1.96	No.12	1.70
B ₅ [12]	I 仮定 + ⑦一旦, 就	17	No. 12	1.88	No.21	0.56
C ₁ [13]	IV 反実 + ④要不是	2	No. 13	1.86	No.3	3.80
C ₂ [14]	IV 反実 + ⑭否则 (没有)	2	No. 14	1.78	No.4	3.21

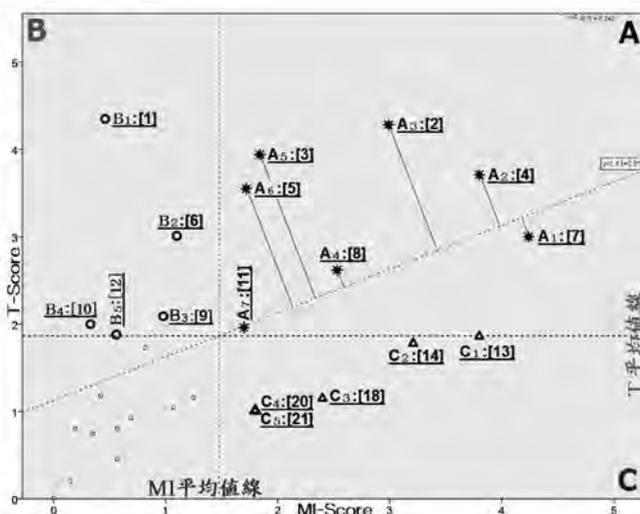
に、どの程度にその共起語が予測できるか (或いはどの程度その語の情報が含まれているか) という指標でもある。たとえば、「明星」という語が与えられれば、その隣には「大学」という語が生起することが強く予測できるであろう。しかし、「大学」が与えられたからといって、その近隣に「明星」が生起するとはほとんど予測できない。この場合、「明星」は共起相手である「大学」という語の情報を多く含んでいるが、「大学」は「明星」という語の情報をほとんど含んでいないことになる。

[MI=log₂ (共起頻度×コーパス総語数/中心語頻度×共起語頻度)]

		中略				
C ₃ [18]	VI契機 + ⑫只要	1	No.18	1.15	No.7	2.40
[19]	VI契機 + ⑧(之)后	2	No.19	1.05	No.15	1.07
C ₄ [20]	IV反実 + ⑩才(能)	1	No.20	1.01	No.9	1.80
C ₅ [21]	V発見 + ⑩才(能)	1	No.21	1.01	No.10	1.80
		以下略				

5.2 日中対訳傾向における関連度分析

ここではAブロックの*印の7組、BブロックのTスコアの一番高い○印の5組とCブロックのMIスコアの一番高い△印の5組のみについて分析する。



<図1> T、MIスコアの散布図

Aブロック (T、MI共に高い): 相互関連度高い組

A1: 「[7] III p 事実 + ⑬ 既然」:5 例、Tスコア: No.7/3.00、MIスコア: No.1/4.24

A2: 「[4] V 発見 + ⑪ 知覚」:8 例、Tスコア: No.4/3.71、MIスコア: No.2/3.80

A3: 「[2] IV 反実 + ⑤ 如果 + 不」:12 例、Tスコア: No.2/4.28、MIスコア: No.5/2.99

A4: 「[8] V 発見 + ⑨ 时(候)」:5 例、Tスコア: No.8/2.62、MIスコア: No.1/4.24

ア :No.6/2.53

A5: 「[3] II 行成 + ⑧ (之) 后」:15 例、Tスコア :No.3/3.94、MIスコア :No.8/1.84

A6: 「[5] VI 契機 + ⑮ 无 标」:13 例、Tスコア :No.5/3.55、MIスコア :No.11/1.72

A7: 「[11] III p 事实 + ③ 的话」:4 例、Tスコア :No.11/1.96、MIスコア :No.12/1.70

B ブロック (T 高く MI 低い): 日中対応関連度高い組

B1: 「[1] I 仮定 + ① 如果 (就)」:126 例、Tスコア :No.1/4.35、MIスコア :No.22/0.46

B2: 「[6] V 発見 + ⑮ 无 标」:16 例、Tスコア :No.6/3.01、MIスコア :No.14/1.10

B3: 「[9] III p 事实 + ⑮ 无 标」:9 例、Tスコア :No.9/2.09、MIスコア :No.16/0.98

B4: 「[10] I 仮定 + ② 如果 - 的话」:48 例、Tスコア :No.10/2.00、MIスコア :No.25/0.33

B5: 「[12] I 仮定 + ⑦ 一旦, 就」:17 例、Tスコア :No.12/1.88、MIスコア :No.21/0.56

C ブロック (T 低く MI 高い): 中日対応関連度が低い組

C1: 「[13] IV 反実 + ④ 要不是」:2 例、Tスコア :No.13/1.86、MIスコア :No.3/3.80

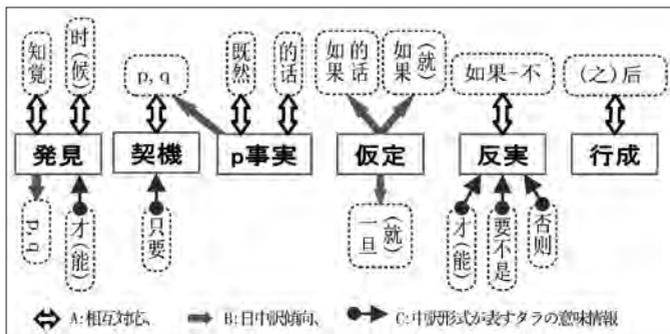
C2: 「[14] IV 反実 + ⑭ 否则 (没有)」:2 例、Tスコア :No.14/1.78、MIスコア :No.4/3.21

C3: 「[18] VI 契機 + ⑫ 只要」:1 例、Tスコア :No.18/1.15、MIスコア :No.7/2.40

C4: 「[20] IV 反実 + ⑩ 才 (能)」:1 例、Tスコア :No.20/1.01、MIスコア :No.9/1.80

C5: 「[21] V 発見 + ⑩ 才 (能)」:1 例、Tスコア :No.21/1.01、MIスコア :No.10/1.80

以上に取り上げた A~C ブロックの特徴を表に整理すると次の表3のようになるが、これらの込み入った関係をもっと分かりやすく図に変えて表すと次の図2のようになる。



<図2> 図1を整理したもの

図2から分かるように、タラ形式の六分類とそれに対応する中国語形式がはっきりと分かれていることが分かる。

A、相互的対応関係：

1. 事実的条件文としてのタラの「発見」は“知覚動詞”、“時(候)”と相互的関連度が高く、「契機」は“無標形式”と相互的関連度が高い。

2. 仮定的条件文としてのタラの「p事実」は“既然”“的话”と、「行為成立」は“(之)后”と、「反事実」は“如果-不”と相互的関連度が高い。

B、中国語訳傾向：

假定状況の設定を表すタラの「假定」は“如果(就)”“如果-的话”“一旦(就)”に訳される傾向が強く、また「p事実」と「発見」は“無標形式”に訳される傾向が強い。

C、タラの意味情報を含む中国語形式：

“要不是”“否则(没有)”“才(能)”この三形式に訳された(訳せる)タラは「反事実」である可能性が極めて高い。また、“只要”は「契機」で、“才(能)”は「発見」である可能性が極めて高い。

6 おわりに

今回の分析で、確定条件と仮定的条件のどちらも表せるタラ形式とそれに

対応する中国語形式の特徴がある程度見えてきたが、こういった定量的分析により、従来の理論研究でできなかった新たな問題点を発見できて、解決すべき問題が示唆できると思う。今回の分析の結果を次の4点にまとめることができる。

1. 「発見」は“**知觉动词**”、“**时（候）**”と相互的関連度が高い。
2. 「行為成立」は“(之)后”と、「**p 事实**」は“**既然**”“**的话**”と相互的関連度が高い。
3. 「反事实」は“**如果 - 不**”と相互的関連度が高く、“**要不是**”“**否则（没有）**”には「反事实」の意味情報が多く含まれている。
4. 「仮定」は“**如果（就）**”“**如果 - 的话**”“**一旦（就）**”に訳される傾向が強い。

参考文献

日本語文献：

石川慎一郎（2012）『ベーシックコーパス言語学』ひつじ書房。

鄒善軍・李光赫（2014）「日中対訳から見るタラ条件文の実証的研究」『研究会報告（連語論研究Ⅲ）』36号，日本語文法研究会編。

張北林・李光赫・趙海城（2015）「テモ譲歩文の文法化と主観化－日中対照の立場から－」『明星大学研究紀要 人文学部』51号，明星大学人文学部。

蓮沼昭子・有田節子・前田直子（2001）『条件表現（日本語文法セルフマスターシリーズ7）』。くろしお出版。

日本語記述文法研究会（2008）『現代日本語文法6（第11部 複文）』くろしお出版社。

前田直子（2009）『日本語の複文』くろしお出版社。

益岡隆志（1997）『複文』新日本語文法選書2，くろしお出版。

高卫东（2005）<慎言汉语的意合>《解放军外国语学院学报》第6期。

李光赫・鄒善軍（2016）「関数検定から見るタラ条件文の中国語訳傾向」『連語論研究Ⅵ（研究会報告40）』日本語文法研究会編。

李光赫・鄒善軍・湯明昱（2015）『日中対照から見る原因・理由文の諸相』風詠社。

中国語文献：

江兰生（2004）<跨层赘短语结构“的话”的词汇化>《中国语文》第5期。

蒋庆荣（2008）<汉语和日语条件句的对比>《安徽工业大学学报（社会科学版）》第6期。

孟琳（2009）《中日现代条件复句的对照研究》山东师范大学硕士学位论文。

邢福义（2001）《汉语复句研究》北京：商务印书馆。

赵国军（2009）<表假设的“吧”与“的话”>《汉语学习》第4期。